漸く煙の見えた八幡製鐵所

●九日より作業に從事せる
八幡製鐵所の職工
九千の職工と二千八百の人夫
怠業者は容赦なく拘引す

九日より兎に角形式的に作業をなすごとくなれる其の前夜なる八日は午後七時頃より雪となり不穏暗黒の雪の八幡市街は更くるに伴れてひそまり行く市内は何れも十時頃ともなれば料理店旅館の如きを除く人家は堅く戸を鎖して深き沈默に入り却してそれだけ無限の恐怖を幾ばくか感ぜしめたり只獨り不夜城の物々しき警を持續せる旅團本陣たる警察部は終夜警察部長旅團長正憲兵隊長等をして自働車を以て製鐵所間を往復疾走せしめ一方工場内は個個の警備隊による警備の警戒は

憲兵はこれを拘引するごとくしなすごとくなれども其の前夜なる八日は午後七時頃より雪となり不穏暗黒の雪の八幡市街は更くるに伴れてひそまり行く市内は何れも十時頃ともなれば料理店旅館の如きを除く人家は堅く戸を鎖して深き沈默に入り却してそれだけ無限の恐怖を幾ばくか感ぜしめたり只獨り不夜城の物々しき警を持續せる旅團本陣たる警察部は終夜警察部長旅團長正憲兵隊長等をして自働車を以て製鐵所間を往復疾走せしめ一方工場内は個個の警備隊による警備の警戒は

▲警官百名
更に來幡す

九日早朝福岡縣下各署に殘留の警官百名は更に來幡直に工場内に向けられたり斯くの如く警察側にては充分なる警戒をなせるを以て是以上の憂慮は萬なかるべしといひ居れるも何分製鐵所の恐慌その極に達し居り殊に憲兵隊長より警察部長に警備保護を手は緩のざるまじ

▲九日午前の

同七時頃集團を作り不穏の狀態となれるが幡本門司署長以下二十名の警官のため鎮靜となり作業に復したるが是と同時に鍛冶工場の百二十三名の職工も同樣不穏の形勢を敢てしたるが憲兵に制肘されたり蒸汽氣壓は平常より六キロの能率なるも九日午前は八キロ以上の成績を示したるを以て製鐵所側は初めて愁眉を開きたり（九日午前十一時八幡特派員發）

▲熔鑛爐の
從業者を

▲協調機關
一の缺陷
罷業狀態
大重要命
警保局事

罷業狀態視察のため政府當局より成積の一大重要命令を負ひ來幡しその宿舍に充てたる西本町の京都ホテルには只短時間の休眠に赴くのみにて引續き八幡警察署に於て視察中の

▲警保局
事務官天宅敬

次氏を八日夜九時半往訪すれば署内應接室に記者を迎へて開口らく「利々發されました手よく私の參つたのがお分りでしたハヽヽマア私の來幡は御想像にならやうな重大使命なぞそんな矢釜しいものではなくてストライキに就いての勉強じすよ然しモウ勉學も濟みましたから一兩日中に歸京する豫定です八日は工場内の實地調査を主さしてやりスイッチの切斷狀態破壞された機關の一部等を見ましたがソウ甚だしい亂暴をしたやうでもありません但

▲勞友會
が同志會職工

の作業を妨害するため可なり威嚇的な脅迫文句を放言し拉し去らん計りにして職工を他に引立て騷擾を煽動敎唆したさいふ事は彼の勞友會それ自体のために餘りに輕率であつて空虛な洞喝に墮し了らんとするを惜むものである現在の怠業を永續して持久的挑戰態度を執る事は過つては居るまいかと思はれます一次長が友意會の干渉を拒んで聞かぬといふのは決して友愛會其のものを憎んでの所爲からでは決してありません由來

▲我日本
には此程の事

●國家の大不
片肌脫だ
微力ながら調
形勢に依更